

様式第11号（第14条関係）

富士見市採択協働事業完了報告書

令和7年2月20日

（宛先）富士見市長

団体の名称 傾聴ボランティア「やまぶき」

代表者氏名 代表 瀬戸 千江

採択者 所在地 富士見市

電話番号

電話番号

採択協働事業（令和6年3月29日付け富協第1438号）が完了しましたので、富士見市協働事業提案制度実施要綱第14条の規定により、次のとおり関係書類を添えて報告します。

1 報告事業の名称 傾聴ボランティア養成研修事業

2 添付書類

- (1) 事業報告書（様式第12号）
- (2) 収支決算書（様式第13号）
- (3) 事業を実施した成果が分かるもの

事業報告書

1 事業の概要

事業の名称	傾聴ボランティア養成研修事業
団体名	傾聴ボランティア「やまぶき」
協働した市担当部署名	高齢者福祉課
事業期間	2024年4月1日～2025年2月7日
事業目的	<p>1) 事業を行う上で達成したい状態</p> <p>全国的にみて少子化・高齢化・核家族化が急速に進行していく中で、単身高齢者帯、あるいは高齢者のみの世帯の増加が著しい。富士見市では、一般世帯に占める高齢者単身世帯の割合が、平成17（2005）年の5%（2,101世帯）から、15年後の令和2（2020）年にはおよそ2.5倍の10,3%（5,256世帯）となった。（国勢調査による）</p> <p>更に2020年から3年間続いたコロナ禍の影響で、外出や人と会うことを控えるなどの行動様式の変化により、高齢者の孤立化が深刻化になっている。</p> <p>隣人やコミュニティとの接点がなくなれば、高齢者の社会的孤立のみならず、運動機能の低下、日常生活における幸福感の喪失等も進み、うつ状態にも陥りがちになってくる。</p> <p>このような社会的傾向を少しでも改善し、お互いの助け合いや声掛けなどにより、地域が生き生きとして誰もが住みやすくなるような街づくりを目指していく。</p>
	<p>2) 現在の状況</p> <p>前述のとおり、高齢者世帯が引きこもりがちになって、認知症やうつ状態が進み、孤独死なども増えているのが現況である。</p> <p>地域では、人間関係が希薄になり、多くの場合「隣は何をする人ぞ」と、他人に対しては無関心になりがちである。また、近所に住む単身の高齢者世帯に対して何かをしてあげたいという気持ちはあっても、まず何をしたらよいかわからないという状況がある。</p>

	<p>3) 上記 (1) (2) の差を解決する方法</p> <p>気になっても、口や手を出しにくい状況にある近所の高齢者に対し、日常的に気軽に話しかけたり、相談に乗ったり、気配りができるようになれば、誰もが安心して住み慣れた地域に住み続けられるようになる。</p> <p>そのための最初のコミュニケーションツールのひとつとして、傾聴ボランティア養成研修を開催し、傾聴の基礎を学んだ市民が増えれば、地域の孤立しがちな高齢者世帯に対し、声掛けなどを行っていくことができるようになる。そうなれば、高齢者の孤立を防止し、幸福感の維持や認知症や介護の兆候等の早期発見にも繋がっていく。</p>	
役割分担	団 体	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の企画・開催 ・事業周知のためのチラシ作成、配布 ・地域の掲示板へのチラシ貼り ・友人・知人への声掛け
	市担当部署	<p>担当課：高齢者福祉課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業についての助言 ・会場の確保 ・広報やHPへの掲載
事業決算額	191,708円	(市補助金 200,000円)

2 事業の成果

	時期（月）	具体的な内容・場所・対象者
実施内容	4月中	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業に関する市担当部署と団体役員による打合せ ・ 事業内容の決定
	4月24日 5月以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師・市担当部署打合せ ・ 周知・集客作業 <ul style="list-style-type: none"> ① 市広報7月号への参加者募集原稿を入稿 ② 事業案内のチラシの作成 ⇒ 配布作業
	6月～ 7月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回研修会の参加者募集作業 ・ 第1回研修会の実施について、市担当部署との打ち合わせ
	9月6日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回「傾聴ボランティア養成研修会」開催 (参加者=58人)
	9月～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回研修会の周知・集客作業 <ul style="list-style-type: none"> ① 市広報12月号への参加者募集原稿を入稿 ② 第2回研修会の募集チラシの作成 ③ 第2回研修会の参加者募集作業
	12月24日 1月10日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師、市担当部署打合せ ・ 第2回「傾聴ボランティア養成研修会（フォローアップ研修）」開催（参加者=60人 内初参加者=30人） ・ 役員を中心として、今年度事業の反省と報告書の作成、次年度事業計画等について検討
	2月7日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当課との反省及び次年度に向けての打ち合わせ

事業効果	<p>「傾聴ボランティア養成研修」を、'24年9月と'25年1月の2回開催した。</p> <p>参加者はいずれも、市の広報や、友人・知人の紹介からの参加が多く、市外からの申し込みもあった。1回目は、講義をメインに、独居の高齢者傾聴の基本や目的、聴くことの意義・相手の反応の確認など。2回目は、「フォローアップ講座」と銘打って開催したが、半数は初めての参加だった。独居の高齢者や高齢者世帯の多い市域では、さりげない声掛けや普段安心して過ごせる環境づくりが大切で、そのためのコミュニケーションテクニックとしての学習として、具体的な例を取り上げながら、不快感を与えることなくコミュニケーションを取っていくなど、「受容」と「共感」が大切であることなど、傾聴についてご理解いただいた。事後のアンケートでもわかるように、自宅で職場で日常に活用していきたいとの感想が多く、研修の評価は高いものであった。このことから、事業を実施したことで、徐々にではあるが傾聴のスキルをもった市民が増えることで、高齢者の社会的孤立の防止、幸福度感の維持・増進が解消につながる。また、受講者には、地域の民生委員やケアマネジャーなど、既に対人援助に携わっている方も多く、スキルの底上げにより、円滑なコミュニケーションが行われることで、地域包括支援ネットワークの強化も見込まれる。</p> <p>さらに、現在ボランティアなどを行っていない、主婦の方・リタイアした男性も参加があり、「地域のため、人のために何かしたい」という方達の需要にもマッチし、新たなボランティア人材の掘り起こしにも寄与することができた。ボランティア自身の生きがいがづくり、社会参加の促進にもつながり、地域で生活する高齢者を含めた市民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域づくり、街づくりに大いに役立つ事業効果が見込まれたであろうと確信する。</p>
------	---

3 今後の事業展開について

2回の講座でそれぞれ60名近い参加があったのは時代的要求があると思われる。よって、次年度・次々年度も引続き、傾聴の大切さを多くの市民に理解し、引き続き地域で生活する高齢者を含めた市民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域づくりに寄与するため、傾聴ボランティアの研修事業を積極的に展開していきたい。

4 団体、担当部署の評価等 評価：◎よくできた ○できた △課題である

協働事業の 評価の視点	団体		担当部署	
	評価	コメント	評価	コメント
協働事業を行うにあたり、互いの情報等を共有できたか。	◎	市の担当業務と、団体の業務の振り分けについて、丁寧に説明していただき、情報の共有はうまくできた。	◎	率直な意見交換を行うことで互いの事情を共有しつつ、情報共有を行うことができました。
協働事業の目的を共有できたか。	◎	よくできたと思う。	◎	よくできたと思う。
協働事業の役割分担は適正だったか。	◎	市の担当課には「広報」・HPへの案内、市関連施設への事業の周知とチラシ配布、会場の確保等していただき、団体としてはとても助かった。	◎	担当課は広報や会場確保を行い、団体は運営や準備を行った。相互に依存したり、されたりすることがなく、互いの役割りを果たすことができましたと思います。
互いを尊重し、対等な立場で協働事業を実施できたか。	◎	その都度、アドバイスや確認をしていただき、対等な立場で協力を得ることができた。	◎	団体の自主性を尊重しながら対等な立場で事業を実施できました。
協働したことにより、地域課題の解決につながったか。	◎	市との協働ということで、しっかり集客できた。2回とも60名近い参加があり広く市民にアピールできたと思う。	◎	アンケート結果から、今回学んだコミュニケーション手法を活かしていきたい旨の回答が多くあり、高齢者の孤独・孤立などの地域課題

				題の解決の一助となる ことが期待される。
<p>【団体の感想等】</p> <p>担当課である高齢者福祉課は、事業実施の助言や確認アドバイスを都度していただき、事業内容を着実に遂行することができた。市と協働で行うことで周知効果も高く、団体単独で行うよりも参加人数が増え大変盛況な実りのある研修となった。第1回は、団体の中でも役割分担をし、初めての大きな集まりとしては、かなりスムーズに運営できた。</p> <p>第2回は、講師との打ち合わせ・時間調整が明確にできず、タイムオーバーとなり、「修了証」も数人にはその場で手渡せず、郵送することになった。全体的に押しすぎてしまい、終わりの挨拶や団体紹介の時間もほとんど取れなかったことが反省事項となった。</p>				
<p>【担当部署の感想等】</p> <p>高齢者保健福祉計画では、高齢者のフレイルとしてフィジカルフレイルに重点を置いているが、社会的脆弱性（ソーシャルフレイル）もあるのではないかという気付きを与られました。閉じこもりがちな高齢者や孤立した・孤独な高齢者に傾聴することで少しでも社会との接点を持ち、人とのふれあいから感じられる温かみを感じて幸福感を抱けるようになるような地域づくりに貢献できる事業だったと思います。</p>				

収 支 決 算 書

事業の名称 傾聴ボランティア養成研修事業

1 収入の部

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
市補助金	200,000	191,708	
団体負担金	0	0	
収入合計	200,000	191,708	差引残高△8,292円

2 支出の部

(単位 円)

科 目	予算額		決算額		摘 要
		うち補助対象額		うち補助対象額	
報償費	80,000	80,000	80,000	80,000	40,000円×2回
旅費	10,000	10,000	10,000	10,000	5,000円×2回（講師交通費）
印刷製本費	75,000	75,000	80,880	80,880	チラシデザイン料（印刷代2,000枚×2回含）
使用料	15,000	15,000	4,496	4,496	70人分×2回+コピー代
消耗品費	7,200	7,200	7,456	7,456	資料用紙、修了証用紙代、封筒代他
役務費	12,800	12,800	8,650	8,650	・保険料28円×60人×2回 ・郵送料等
食糧費	0	0	226	226	講師お茶代
支出合計	200,000	200,000	191,708	191,708	